

ふし不昨二十六日野田聯合會より、應援家附トレ
テ山口魁ハ金二千円ヲ持参セリ（新聞紙ニ八千円
ヲ家附セんとノ記事ハ踏大ナリ）
五會ハ此例ノ態度

前報、如ク組合幹部ト、會見ハ他件ニ避ケ萬一
解雇肉類ニ関シ會見申込ハハ際ニ解雇ノ理由
ヲ説明スルニ止メ解雇手當其他ニ就テハ何等
言及セズト決シ、尚ホ解雇手當肉類ハ總
裁解雇ナリト以テ原則トシテ支給セズト他會
社、振合上多少支給スルマデ意留ナリ

右及申（通）報候也

市民諸君に訴ふ 一月一報一

労働争議は好くは労働者の行動の中心なく寧ろ現行工業生産の中心に在りて起るべき問題である。昔て現行の労働争議は如く大體生産の中心労働者の中心に在りて起るべき問題である。今圓三四回國労日本労働者代表會社に就いてある争議は労働者の中心に在りて起るべき問題である。六月二十五日然も依然として解決の曙光を窺はれず暗黒たる雲を漲りつゝある状態である。我々は一日も待つては居ない。争議の平和的解決の求らん爲めに努力して一、再々之様に於て其の行動に於て是れを打破する取つて來た然も高争議の解決せざるに就て吾等は交渉に其の真相を暴露し、然して諸君の所を察の上更に暴露する會社への誠心を述べた。

六月十八日の後代表と交渉に於て行つた。會社の解決は其の要求の一部分は通過せざるも是れは要求を大小と云ふ性質のものも有るが故に交渉は是れは今回の要求は決して不成立の計画に於ては其の中心に在りては同じようになり、一日の労働争議は恩恵を多く受けるが然るを得ずとして受取べきものことと云ふ性質に在りては會社は自分一個の計算的考へから中立的な解決を以て断つてせざるに相当に要求は大小にかかると言ひ、内容は是れ以上は會社の方針と大抵のこととは出来ぬと頑固にしている。是れを以て、争議を以て弱く弱く労働者は影を採取しようとする。この外ならぬ。今回の争議の解決は、結局は労働者の要求に絶對に他人から自由を拘束せぬ。このためとして、労働者の働きに依つて労働者を保護せしめらるべきことと云ふ考へ、然る等々所望の會社の方針である。

三

親愛なる市民諸君、此會社の力は正義に就くべきである。彼れに力のあふからしむるは悪に就くと思はる。労働者は五人は格別な事を出さず、
以上五等以下の會社の言分を暴露する。
會社の言分を通じても、労働者は然る後、最善を施すべし。
何と云ふ暴露は、労働者の要求に、水引き其の多め、此會社が、迷惑を感して、只、會社の方針を、あつた、知るとは、家上暴露の極みである。